

核構造・崩壊データ専門部会
拡大グループ・リーダー会合
議事録（案）

日時 昭和61年9月2日（火） 13:30~17:00
場所 原研東海研究所 研究2棟221号室
出席者 中嶋龍三（法大），吉田正（NAIG），田村務（原研），
内藤叔孝（原研），片倉純一（原研）

議事内容

1. 拡大グループ・リーダー会合開催の経緯

中嶋部会長より拡大グループ・リーダー会合開催の経緯について説明があった。「核種生成量評価W. G.」から崩壊データや (α, n) 反応等のデータについて他のグループへの期待が表明されているが、具体的にどう対応するか、関連グループ間で調整を計りたい。

2. 「核種生成量評価W. G.」からの要望

内藤委員より核種生成崩壊計算コードCOMRADで使用するデータ・ライブラリーの再検討を行いたい、FP及びアクチニドの崩壊データ、自発核分裂データ（放出中性子数等）、 (α, n) 反応等のデータ評価を他のグループにお願いしたい旨説明があった。尚、中性子断面積の1群化定数の作成及び計算コードの整備は原子力コード委員会で行いたい旨補足説明があった。

3. 各グループの活動について

「核種生成量評価W. G.」の要望に答え得るかどうか各グループの活動状況について説明があった。

(1) 核構造データ W. G.

田村委員より「核構造データ W. G.」の活動について説明があった。1977年より9～10名で活動している。NSDDのネットワークの1員として ENSDF 作成に係わっている。1mass に対し約3名で担当し、評価を行っている。現状では、ENSDF を提供することなら可能であるが、man power との関係で、現在以上の評価活動を行う余裕はない。

(2) 崩壊熱評価 W. G.

吉田委員より「崩壊熱評価 W. G.」の活動について説明があった。FP の崩壊データに関しては、既に JNDC 第1版、1.5版を作成した。現在、問題点の改良をし第2版を今年度中に作成する見通しを得ている。第2版作成に主眼を置いており、アクチニド核種に評価を拡張することは現状では困難である。「核種生成量評価 W. G.」で必要とする崩壊データは、第2版を利用するのが良いであろう。

4. 今後の活動について

(1) 「核種生成量評価 W. G.」しい必要とするデータを整理し、何が必要で、どのような検討が必要なのかを明らかにする。例えば

(i) アクチニドチェーンはどれだけ必要か？

(ii) 核種生成量評価に必要なデータのうち JENDL でどれだけカバー出来るか？

(iii) 構造材等について必要な核種、核反応及び崩壊の種類等を明確にする等。

(2) Spontaneous fission, (α , n) 反応等に関しては、検討内容によっては、小人数の評価グループを作ることも考えられるが、委託ということで考えたかどうかとの意見もあり、委託ということで検討することとなった。

5. その他

部会長の交替について、中嶋部会長より相談があたが、当分の間、続けてお願いすることとなった。